

IV-39

ニュータウン建設をトリガーとする地域活性化の論理に関する考察

京都大学工学部 正員 春名 攻
東洋技研コンサルタント 正員○金城昌幸

1. はじめに

魅力と活力ある都市を形成するためには、都市機能の中に「先端性」、「高品質化」、「高級化」など近年の社会経済動向に対応する今日的要素の導入の重要性がいられている。

そこで、本研究ではニュータウンという新しい都市空間を創出することにより、ニュータウンと周辺地域からなる地域の一体化・活性化を実現するための方法の概念について考察を行うこととする。特に、新しい都市機能の中でも現在とくに注目されている高度情報化という視点を中心として考察することとする。

2. 個性ある都市の創出の概念

昨今は社会・経済の新しい潮流として多様化社会に突入してきており、個人および社会の要求は多様化・複雑化・個性化しており、これら種々の変化に対応するための都市を意識的に創出する必要がある。

街づくりにおいて個人および社会の多様な要求に応えるためには、まずその都市が、都市として複合された機能を有し、自律型を志向する都市形成を目指す必要がある。ただし、1つの都市として単独に、多様で高度な要求を充足する機能を全て兼ね備えるということは、かえって非効率な都市を生み出す可能性があると考えられる。そこで、都市機能・立地を考えるに際してはその都市個有の少数（1つあるいはそれ以上）の特化した都市機能と、その他必要最小限の機能（シビルミニマム）を配置することとするが、これを地域として補完協調しあうように都市との有機的連携をはかり、全体地域としてこれら多様な要求にあたるべきであると考えられる。つまりこれは、地域を構成する全都市が同質な機能や特性をもつということではなく、各都市ごとに保有させるべきより高度化された機能を、地域特性等を活かすという観点からまた周辺との調和をも図るという観点から各都市に配分（導入）することであるといえる。つまり、異種の高度化された機能をもって他都市と競合することが、個性ある都市（都市の差別化）の創出につ

ながると考えるものである。

また、このことはその地域に居住するすべての個人の意識の中に、広域にわたっての都市機能の共有感という概念の創出を派生させる可能性もある。人が動くことによって、「人」・「物」・「情報」などの要素をとおしての活発かつ多様な活動を生み、都市として多様な交流（コミュニケーション）の実現が可能となり得ると考える。

3. トリガー効果を発揮できるニュータウン像

ここでは、地域の一体化・活性化のトリガー効果を発揮できるニュータウン像について、北大阪地域に建設が企画・構想されている茨木・箕面北部丘陵ニュータウンを対象として概念的であるが具体的に考察した内容を示すこととする。

当該ニュータウンは、地域の一体化・活性化のトリガーの役割を果たす戦略拠点として、また特に地域の高度情報化の枢要な地区としてのこの2点の役割を果たすことができれば、このニュータウン開発の意義は非常に大きいと考える。

都市・地域の活力の創出源は、都市の活動主体を企業とか個人とかにかかわらずあくまでも「人」が行動主体であるという考え方をとることとする。これら「人」が活発かつ多様な交流（コミュニケーション）によって地域の活性化がもたらされるものと把えることができる。そして、この交流つまり物的・非物的コミュニケーションは、情報交換管、相互啓発を行うことで、工夫・アイディアを生み出すきっかけとなり得ると考えている。つまり、個人はもとよりその集合体である企業にとって、種々のビジネスチャンス、エンカウンターチャンスの発生が可能となり、またこれらを保有することが自律型志向の都市への展開に大きく寄与するものと考えられるものである。

ただし、これらビジネスチャンス、エンカウンターチャンスは、連続的に提供することが必要である。つまり、創造的・触発的な魅力ある情報（あくまでも主体は「人」）が必要なときには迅速に、また必

要なものだけでなく創造的な行動に役立つアイデアを啓発するような情報の流通が行われるよう工夫が施されていることが必要である。そこで、これら情報を活用する際にはアプローチが可能なようにコスト、質、量の各面において、活用のための行動が実現可能な状況を作り出しておく必要がある。

また、工夫・アイデアを実行するにあたっては、実験的試行という概念をもって「工夫・アイデアに基づくシーズ」を植え込むことが必要であり、この成果をある期間観察することや段階的に判断を行っていくことが必要である。そして、この過程を通じて成長するものはさらに育成し、

問題が派生したものは改良を加えていくという地域マネジメント的概念をもつことが必要である。このことが実現性の高い魅力的なニュータウン開発プロジェクトとして仕上げる上で重要と考える。

ニュータウンの主たる指命と考えられるビジネスチャンス、エンカウンターチャンスの創出について、各活動毎に必要な視点を具体的に表－1に示すこととする。

また、過去に先例をみない新しい都市空間づくりにおいては、スタートアップ時の機能・施設の導入というプログラムを用いることにより初期インパクトの強烈さも与えることも重要であると考えられる。以上のことを踏まえて、ニュータウンの役割を整理すると表－2に示すようになる。これらのことによって、ニュータウン建設を地域の一体化・活性化へのトリガーの役目をもつことができる。

4. おわりに

以上のように概念論としてニュータウン建設をトリガーとする地域活性化の方法について考察を行っ

表－1 ビジネスチャンス、エンカウンターチャンス創出の具体的視点

産業活動	<ビジネスチャンスの創出> ●国際化、先端化等に関連した（生かした）活動自体はもとより、これを喚起するような種々のコンベンション、イベント等の開催が可能であると考えられ、ビジネス情報の交流も活発となるであろう。この情報の交流を生かし、企業においてはビジネスシーズの高度化・複合化が行われ、また異業種間交流の促進等も行われ、多種多様なビジネスチャンスの創出が図れるものとする。 ●同時に、ニュータウン内に蓄積される種々の情報が企業等に提供されることによって、自分たちの企業のおかれている立場や状況、何をしなければ維持・発展できないか、等相対的評価や情報不足の認識をもって行動する人を生み出したり、企業の育成の可能性の創出も図ることが出来るものとする。
生活・社会活動	<エンカウンターチャンスの創出> ●上記のビジネスチャンスのバックボーンともなる“人”の出会いが活発になることによって、種々の価値観をもつ人および集団が集まり得る可能性がある。この種々の価値観は多様化されているだけでなく、共通の価値観として確立されれば、共有し得る感覚のベースとなる新しい地域文化の創造も可能となると考える。このことは都市の卓越した個性化（差別化）に通ずるものであると判断している。 ●このためには、都市・地域としては自由で創造的な環境の場の提供を行い、これが生活・社会活動に対し充実感・躍動感ある活動のサポートとなっていくと考えられる。 ●よって、都市は自らの判断をもって、生活行動設計や人生設計などが可能な都市となるべきであると考えられるものである。 例えば、 ①余暇活動における新たな遊び、楽しみの創出（都市型リゾート）、それらに伴う新たな消費活動の創出 ②学術・文化的活動による自己発展可能な創造的空間の創出 ③ニュータウン内への業務・研究機能の導入による新たなビジネスライフの創出（職住近接） ④先端の装置・ソフトの活用による安全性、効率性の高い生活活動の創出（医療、防災・防犯、行政サービスなど） ⑤家庭内日常生活での先端の装置・ソフトの活用による新しい生活様式の創出（ホームオートメーション、各種生活関連サービスなど情報の選択が可能であること）

たが紙面の関係上、十分に述べることができず舌たらずとなっているが、講演当日には実際事例としてより具体化された内容について述べることにする。

表－2 ニュータウンの果たすべき役割

広域的で高度・高質なコミュニケーションの場の提供	・異様な価値感をもつ人（外国人、大学人、専門職等）の集積の場 ・既存の地域資源の活用による交流機会の創出 ～都市型リゾート ・国際・文化・学術交流、各種イベントの実施等による情報中核拠点の形成およびビジネスチャンス・エンカウンターチャンスの創出
既成都市核との機能連携による地域連合の媒介的役割	・広域的な交流拠点 ～国際交流、国内交流のゲート ・千里地区との連携 ～ライフサイエンス拠点、大阪テクノスタイルセンター、大阪大学国立民族学博物館、業務等の既集積機能の活用・補完 ・既成市街地との連携 ～主要ターミナル、主要幹線等の交通基盤を含め高度な構造への更新の起爆剤（都市再開発等）
新しい街づくり（地域の更新、活性化）の先導的役割	・地域の高度情報化の必要性を喚起するための実験 ・高度情報化による産業構造の転換 ～企業（人）の育成、転換、ビジネスチャンスの創出 ・先端の装置を活用した快適な生活空間の創造の試み ～エンカウンターチャンスの創出 ・都市経営（マネジメント）概念の導入、複合主体の調整 ～開発手法および整備方法に関する新たな試み ・職住近接の試み～新しいビジネスライフの創出の試み